

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第54号 2019年4月25日発行

+++++

スペインとポルトガルに行ってきました。コインブラ大学の図書館、リスボンの世界一美しい書店概観を見てきました。古い本も新しい本も大事にされ、読み継がれていることに尊敬とともに羨望を感じました。日本人が本を大事にしなくなったのはどうしてでしょうか。ロカ岬のマツバギクもかわいらしかったです。椿や桜、紫陽花など多くの日本の植物が公園や個人の庭に植栽され、丁寧に管理されていました。教会や宮殿の壁画や絵画にも多くの植物が描かれ、これらをモチーフにしたアズレージョ（タイル）や刺繍の小さいものを展示用に購入しました。

植物腊葉標本の他、写真スライドなど、図書を整理しています。利用していただくとうれしいです。会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に広く転送伝達していただくとありがたいです。

○報告

今年から山畑は、縄文人の森の畑1カ所にします。植物と人々の博物館のすぐ上にある丘の斜面で、眺望が良いです。ここに穀物等の見本園も移します。旅行から帰って、久しぶりに畑に行ったら、ジャガイモが9割がたイノシシに食べられて、麦類も葉がなくなっていました。がっかりです。ニンニクはさすがに無傷でした。雨が降らず乾燥害もひどく、キャベツやカリフラワーは育ちません。自宅で水やりをしてよい苗を育てても、山畑に定植すると枯れてしまいます。奥多摩湖の水位も下がっています。と書いていたら、今度は雨続きで、連休中は畑に行けなくなりました。

○予定

1. 植物と人々の博物館開館・作業予定日：2019年5月7日、18日、24日、31日の予定です。植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしく願います。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってすぐです。工事中の細川邸は7月に古民家旅館としてオープン予定のようです。

学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。しばらくはインド亜大陸収集の標本や小林央往さんの収集標本（トルコやルーマニア含む）の整理をします。森とむらの図書室（小菅現在約3500冊、藤野分室約1500冊、将来総計約7000冊以上）に環境と教育関係の図書（国内外含む）の多くを整理しました。順次資料のリストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

2. NPO環境文明21の憲法部会：5月13日（月）午後6時から、大崎で開催です。

第 3 章環境原則の文案の再検討と今後の学習会（議員会館内）の予定について話し合います。ご関心があれば、ご連絡ください。

3. 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。特に、家族農業（小規模・家族農業ネットワーク・ジャパン）について学びたいです。

4. 雑穀街道と FAO 世界農業遺産

相模原市緑区長が小菅村まで雑穀街道を視察に行ってくださいました。5 月 8 日に区役所にご説明に上がる予定です。興味を持ってくださっていた丹波山村長が急逝されました。自家用車で 2 回も小作駅まで送ってください、車中でとても熱心に雑穀街道について聞いてくださいました。ほんとうに残念ですが、ご冥福を願うしかありません。

FAO 世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。来年にはぜひ申請できるように、賛同が広がるようにならざるご援助くださいますようお願いいたします。FAO 世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いいたします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpmilvil.html>

5. 民族植物学ノオトは次の第 13 号からは電子出版のみにする予定ですが、いつでもご寄稿を歓迎します。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）で読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。会誌ナマステは自然文化誌研究会のホームページで読めます。

6. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえ、自由に書いています。現在は第 9 章スリランカとバングラデシュの雑穀を研究会に参加し、文献を読んで、学んでいます。今年はインド亜大陸の著述に時間を使います。補論として、植物と信仰について論考を深めたいです。『日本雑穀のむら』は第 5 章中部地方の雑穀文化複合、補論 3 副食主菜の起源を検討しています。『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”はまだ非公開ですが、書き進めています。これらは、下記の雑穀・民族植物学関係個人ホームページで読めます。引用してくださる場合は、順次必要に応じて改訂していきますが、とりあえず「木俣（2019）」としてくださるようお願いいたします。『環境学習原論—人世の核心』（2019）は是非一読いただきたいです。

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか  
雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

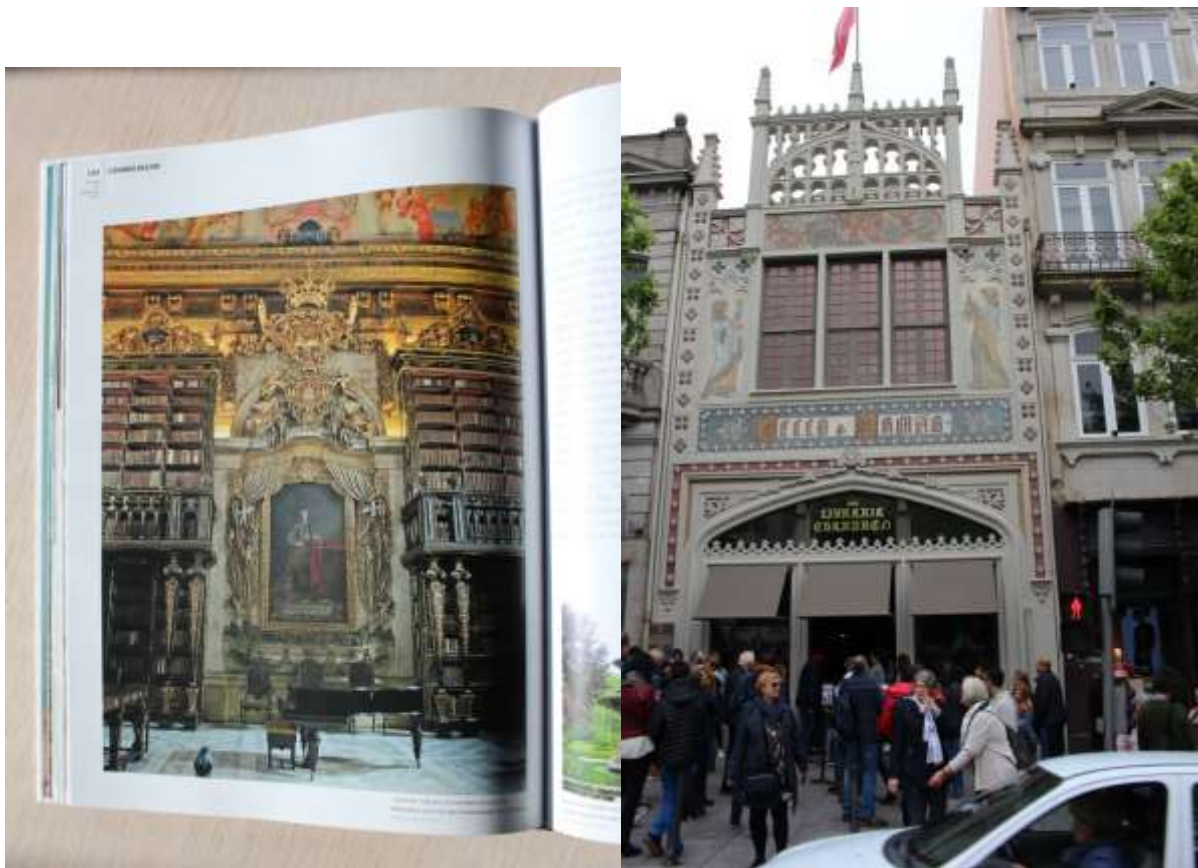
メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP：生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

写真



コインブラ大学のジョアニア図書館（撮影禁止なので、観光ガイド「Golden Book 2019」より）は映画「美女と野獣」に1シーンらしい。ポルトの世界で最も美しいリブラリア・レロ書店、ハリー・ポッターの著者ローリングが英語教師としてポルトに住んでいたのが、魔法界の書店のイメージとして出てくる。内部に入るには入場整理券5ユーロが必要で、とても大勢が並んでいたのが、概観しか写せなかった。



シントラにあるユーラシア最西端のロカ岬。リスボンにある発見のモニュメント、エンリケ航海王子を先頭にヴァスコ・ダ・ガマ、マゼランなどの探検家やフランシスコ・ザビエルなどの宣教師や学者もテージョ川に向かって並んでいる。



オビドスのサンタ・マリア教会のヤシの葉。シントラの王宮のアズレージョ、トウモロコシのデザイン。



コインブラ大学の植物園